

## 抗菌薬感受性測定法検討委員会最終報告（2007年）

委員長 永山在明 福岡大学医学部微生物・免疫学教室  
委員 山口恵三 東邦大学医学部微生物・感染症学講座  
渡邊邦友 岐阜大学生命科学総合実験センター  
田中正利 福岡大学医学部泌尿器学教室  
小林寅詰 (株)三菱化学メディエンス化学療法研究室  
永沢善三 佐賀大学医学部附属病院検査部

1968年にわが国独自の最小発育阻止濃度（MIC）測定法である寒天平板希釈法が制定された。その後、諸外国でのMIC測定法との間で2、3の差違がみられたことから、1981年に三橋進委員長により再改正版が報告され現在まで使用されてきた（Chemotherapy, Vol. 29, 1981）。

この期間、1979年に小酒井望委員長により嫌気性菌に関する寒天平板希釈法による測定法が制定され（Chemotherapy, Vol. 27, 1979）、1990年には五島瑳智子委員長により一般細菌を対象とした微量液体希釈法が新たに追加承認された（Chemotherapy, Vol. 38, 1990）。さらに斎藤厚委員長により、一般細菌および栄養要求性の厳しい菌種を対象とした培地の検討および嫌気性菌を対象とした微量液体希釈法の検討がなされ、1992年に第40回日本化学療法学会総会で提案し、一部原案に修正を加えられた後、学会標準法として設定された（Chemotherapy, Vol. 41, 1993）。

今回、日本化学療法学会では寒天平板希釈法による測定法の改定が約20年近く行われていなかったことより再検討の依頼があり、上記委員が委託され委員会が組織された。この委員会では1981年に再改定された測定法と国際的な標準法である Clinical and Laboratory Standards Institute（CLSI）の測定法を比較し改定のための検討を行った。

### I. 日本化学療法学会標準法である寒天平板希釈法の改定理由

1968年にわが国独自の最小発育阻止濃度（MIC）測定法である寒天平板希釈法が制定された。その後、1981年に三橋進委員長により再改正版が報告され、約20年間変更されることなく使用されている。この間、CLSIの測定法が国際的な標準法として認知されてきた。わが国の標準法とCLSIが設定した寒天平板希釈法の標準法を比較すると、接種菌液濃度および抗菌薬測定濃度において明らかな違いが認められるため、国際的なデータの評価・比較ができない状況にあり、会員各位より改定の要望がなされていた。

### II. 寒天平板希釈法によるMIC測定の基本方針

抗菌薬感受性測定法検討委員会（委員長：永山在明）では各委員と協議を重ねた結果、日本化学療法学会標準法の寒天平板希釈法にCLSIの設定した測定法を採用する提案がなされた。この理由は、CLSIの提案する方法の基礎は大部分が国際共同研究から収集された情報に基づいており、これらの測定法は標準法として、臨床微生物検査室で日常使用が十分できるだけの実用性を備えている。また、国際的なデータの評価・比較が可能であり、かつわが国においてCLSIが設定した方法で測定した場合に問題となる事項が認められないことによる。

ただし、わが国独自の寒天平板希釈法による測定データも膨大に存在し、過去のデータと評価・比較する際には現行法（Chemotherapy, Vol. 29, 1981）を参考測定法として残す。また、わが国の嫌気性菌に関する測定法は *Bacteroides* 属を対象に設定されているため、本法を残すためには感受性測定用培地、接種菌液調製、嫌気培養法および培養時間など文言の訂正・補足を加える必要がある。

このような背景を考慮し、現状においてはCLSIの設定した測定法を一般細菌および嫌気性菌について比較検討した結果、CLSIの寒天平板希釈法<sup>1)</sup>を日本化学療法学会標準測定法の一つとして採用することにした。

### III. CLSIの寒天平板希釈法による最小発育阻止濃度（MIC）測定法<sup>1)</sup>

#### 1. 対象菌種

腸内細菌科、緑膿菌、緑膿菌以外のブドウ糖非発酵菌、*Acinetobacter* 属、*Burkholderia cepacia*、*Stenotrophomonas maltophilia*、コレラ菌、ブドウ球菌、腸球菌、淋菌、肺炎球菌以外のレンサ球菌、髄膜炎菌、*Helicobacter pylori* および嫌気性菌を対象とする。

## 2. 感受性測定用培地

菌種：腸内細菌科，緑膿菌，緑膿菌以外のブドウ糖非発酵菌，*Acinetobacter* 属，*Burkholderia cepacia*，*Stenotrophomonas maltophilia*，コレラ菌，ブドウ球菌，腸球菌

感受性測定用培地は Mueller-Hinton agar (MHA) を使用する。

組成：肉抽出液 300 g，カザミノ酸 17.5 g，デンプン 1.5 g，寒天 17 g，精製水 1,000 mL

なお，ブドウ球菌に対するオキサシリンの抗菌薬測定には MHA に塩化ナトリウムを 2% 添加する。

菌種：淋菌

増殖促進物質である 1% のサプリメント\*を加えた GC 寒天培地を使用する。

\*サプリメントは 1 L 中に 1.1 g L-システイン，0.03 g グアニン塩酸塩，3 mg チアミン塩酸塩，13 mg p-アミノ安息香酸，0.01 g ビタミン B<sub>12</sub>，0.1 g コカルボキシラーゼ，0.25 g NAD (Nicotinamide adenine dinucleotide)，1 g アデニン，10 g L-グルタミン，100 g グルコース，0.02 g 硝酸第 2 鉄を含む。

菌種：肺炎球菌以外のレンサ球菌

ヒツジ血液 (5% v/v) を添加した MHA を使用する。ただし，スルホンアミドを測定する場合にはウマ溶血液を用いる。

菌種：髄膜炎菌

ヒツジ血液 (5% v/v) を添加した MHA を使用する。

菌種：*Helicobacter pylori*

採血より 2 週間以上経過させたヒツジ血液 (5% v/v) を添加した MHA を使用する。

菌種：嫌気性菌

ヘミン (5 mg/mL)，ビタミン K<sub>1</sub> (1 mg/mL) およびウマ溶血液 (5% v/v) を含有するブルセラ寒天培地を使用する。

## 3. 菌液調製法

CLSI 法では増殖法と直接法の 2 通りによる菌液作製法があり，各菌種において増殖法と直接法，あるいは直接法のみで 10<sup>8</sup> CFU/mL の菌液を作製する。10<sup>8</sup> CFU/mL の菌液を作製するには，0.5 McFarland (*Escherichia coli* ATCC<sup>®</sup> 25922 を使用した場合，菌液は 1~2×10<sup>8</sup> CFU/mL) になるように専用比濁計あるいは目視で増菌用プロスまたは滅菌生食水を用いて調製する。目視で調製する場合には，本委員会では 0.5 および 1 McFarland 濁度標準液 2 本を使用して実施することが望ましい。なお，ムコイド型の形態を示すことのある緑膿菌，*Klebsiella* 属等では 0.5 McFarland に調製しがたいため，事前に各施設で濁度と菌液量を測定しておく。

3 mm 接種ピンを使用する場合の接種菌液作製には 0.5 McFarland に調製した菌液を滅菌プロスまたは生理食塩水で 10 倍に希釈して使用する。1 mm ピンを使用する場合には 0.5 McFarland の菌液をそのまま使用する。

増殖法：腸内細菌科，緑膿菌，緑膿菌以外のブドウ糖非発酵菌，*Acinetobacter* 属，*Burkholderia cepacia*，*Stenotrophomonas maltophilia*，コレラ菌，腸球菌

直接法：腸内細菌科，緑膿菌，緑膿菌以外のブドウ糖非発酵菌，*Acinetobacter* 属，*Burkholderia cepacia*，*Stenotrophomonas maltophilia*，コレラ菌，ブドウ球菌，腸球菌，淋菌，肺炎球菌以外のレンサ球菌，髄膜炎菌，*Helicobacter pylori*\*

\**Helicobacter pylori* の場合は血液寒天培地で 72 時間継代培養した菌を使用し，2 McFarland に菌液を調製する (1×10<sup>7</sup>~10<sup>8</sup> CFU/mL)。

嫌気性菌に関しては下記の調製法を推奨する。

### 1) 増菌法

ヘミン，メナディオオン添加チオグリコレート培地 (指示薬不含) に十分量の集落を接種し，培地に適度な混濁が得られるまで (6~24 時間)，35~37°C のフラン器で培養する。

### 2) 直接法

適切な嫌気性菌用の寒天培地で 24~48 時間培養した集落を菌液調製用液体培地に直接懸濁する。嫌気状態を解除後 30 分以内に作業を終える。

### 3) 調製法

増殖法，直接法のいずれの方法においても最終的に原則として 0.5 McFarland 標準液に等しい濁度の菌液を調製する (菌種により，濁度の調節が必要。日本化学療法学会雑誌 41 巻 183 頁「委員会報告 日本化学療法学会抗菌薬感受性測定法検討委員会 1993 年」を参照)。菌液調製用液体培地にはブルセラプロス，嫌気性菌用プロスなどの透明度の

高い液体培地を使用する（前もって還元してあるもの、あるいは使用前に脱気（煮沸後急冷）したもの）。なお、菌液調製は菌接種の直前に行う。

#### 4. 抗菌薬調製法

CLSI 法では抗菌薬の原末は信頼できる供給業者より入手し、その際には一般名、ロット番号、力価および有効期限が明記された証明書も入手しておく。溶解法は各抗菌薬に適した溶媒で行い、保存に関しては原則 2~8℃ で行うが、抗菌薬によっては力価が急激に低下するものを理解し、調製後はすみやかに操作を行う。抗菌薬の測定濃度は原則的に 1 μg/mL を基準として連続 2 倍希釈法により抗菌薬濃度を調製する（例、1, 2, 4, 8, 16 μg/mL など）。ただし目的に応じて濃度設定を変更してもよい。

#### 5. 寒天平板作製法

感受性測定用培地は 45~50℃ で保温し、シャーレに各抗菌薬調製液と感受性用培地を適当な割合でよく混ぜて固める。その際、寒天の厚さは 3~4 mm になるようにする。なお、嫌気性菌用培地は作製当日に使用し、保存は行わないことを原則とする。

#### 6. 菌液接種法

CLSI 法は規定された白金耳、ピペットあるいは接種用器具を用いて、寒天表面に調製・希釈した菌液（ $10^7$  CFU/mL）を  $1\sim 3 \times 10^4$  CFU/spot になるよう接種する。特殊の接種装置を用いて多数の被検菌を同時に接種する場合には、金属製のピン（通常直径 3 mm）を使用する。なお、接種用器具が種々の企業より販売されているため、使用する金属製ピンの接種量を事前に認識しておく。嫌気性菌に関しては寒天表面に  $1\sim 3 \times 10^5$  CFU/spot になるよう接種する。なお、多くの嫌気性菌は短時間の大気暴露に耐えるので、すべての操作を大気中で行うことができる。菌種、菌株によってはすべての操作を嫌気性グローブボックスのなかで行う必要がある。

注意事項としては

- ①一般細菌の場合は薬剤を含まないプレート 1 枚に接種し、嫌気性菌の測定の場合は菌液接種のはじめと終わりに、嫌気性菌の発育と通性菌の汚染を確認する目的で嫌気培養用コントロール 1 枚と好気培養用コントロール 1 枚の計 2 枚に接種する。
- ②薬剤の濃度の低い平板から高い平板へと菌液を接種する。
- ③薬剤の種類が変わる場合、前薬剤の影響のないことを確認するため薬剤を含まない培地 1 枚への接種を行う。

#### 7. 培養法

CLSI 法では菌種によって培養条件と培養時間を設定している。

菌種：腸内細菌科、緑膿菌、緑膿菌以外のブドウ糖非発酵菌、*Acinetobacter* 属、*Burkholderia cepacia*、*Stenotrophomonas maltophilia*、コレラ菌、ブドウ球菌、腸球菌

培養：好気的条件下で  $35 \pm 2^\circ\text{C}$ 、16~20 時間培養する（菌種および薬剤により異なる）。

- ① *Yersinia pestis* の場合は 24 時間、*Acinetobacter* 属、*Burkholderia cepacia*、*Stenotrophomonas maltophilia* の場合は 20~24 時間培養する。
- ② ブドウ球菌のオキサシリン、バンコマイシン測定においては 24 時間培養し判定する。なお、オキサシリン耐性ブドウ球菌を検出する場合には  $35^\circ\text{C}$  を超えてはならない。
- ③ 腸球菌のバンコマイシン測定においては 24 時間培養し判定する。

菌種：淋菌

培養：5%CO<sub>2</sub> 環境下で  $36 \pm 1^\circ\text{C}$ 、20~24 時間培養する（ $37^\circ\text{C}$  を超えてはならない）。

菌種：肺炎球菌以外のレンサ球菌

培養：好気的条件下で  $35 \pm 2^\circ\text{C}$ 、20~24 時間培養する（菌種および薬剤により異なる）。

- ①発育に CO<sub>2</sub> の環境が必要とする場合には使用してもよい。
- ②CO<sub>2</sub> を使用した場合には、pH がアルカリ側で安定な抗菌薬では MIC に影響を及ぼす可能性があることを認識して測定する。

菌種：髄膜炎菌

培養：5%CO<sub>2</sub> 環境下で  $35 \pm 2^\circ\text{C}$ 、20~24 時間培養する。

菌種：*Helicobacter pylori*

培養：微好气的条件下で  $35 \pm 2^\circ\text{C}$ ，72 時間培養する。

① *Campylobacter* 属が適応可能なガス発生装置によって生成される微好気環境で行う。

菌種：嫌気性菌

培養：嫌气的条件下で  $35 \sim 37^\circ\text{C}$ ，42～48 時間培養する。

① 通性菌の汚染を確認するためにコントロールとして接種した培地は 5%  $\text{CO}_2$  培養を行う。

② 培養環境には嫌気性グローブボックス，または嫌気性培養用の各種容器を用いる。

③ CLSI 法では  $\text{CO}_2$  の濃度を 4～7% (Gas Pack 法使用時に相当) に指定している。

④  $\text{CO}_2$  濃度が高くなると発育が促進するケースが多いが，10% 程度にとどめる。

⑤ 結果を公表する際には培養環境における  $\text{CO}_2$  濃度を記載する。

## 8. 判定法

判定法に関しては，明るい照明下において肉眼で，下記の記載を参考にその濃度（終末点）を MIC とする。

① その濃度で顕著な発育の抑制がみられ，発育がまったくみられない。

② 徐々に発育が悪化し，その濃度でわずかな発育あるいは全体に haze (接種菌液の痕跡が極微細な点の集まりとして観察される) のみがみられる。

③ その濃度で顕著な発育抑制がみられるが，多数の微小集落が残っている。

④ その濃度で顕著な発育抑制がみられるが，数個の正常サイズの集落が残っている。

⑤ その濃度で顕著な発育抑制がみられるが，haze が残っている。

⑥ 発育が徐々に悪化し，その濃度で少数の大きな集落がみられる。

⑦ トリメトプリムとスルホンアミド系薬剤の場合には対照培地に比べ 80% 以上の減少があれば陰性とする。

## 9. 精度管理菌株

菌種：腸内細菌科

精度管理菌株：*Escherichia coli* ATCC<sup>®</sup>25922,  $\beta$ -ラクタマーゼ阻害薬との合剤を測定する場合には *Escherichia coli* ATCC<sup>®</sup>35218 を追加して行う。

菌種：緑膿菌，緑膿菌以外のブドウ糖非発酵菌，*Acinetobacter* 属，*Burkholderia cepacia*，*Stenotrophomonas maltophilia*

精度管理菌株：*Pseudomonas aeruginosa* ATCC<sup>®</sup>27853 および *Escherichia coli* ATCC<sup>®</sup>25922,  $\beta$ -ラクタマーゼ阻害薬との合剤を測定する場合には *Escherichia coli* ATCC<sup>®</sup>35218 を追加して行う。

菌種：コレラ菌

精度管理菌株：*Escherichia coli* ATCC<sup>®</sup>25922 を使用する。

菌種：ブドウ球菌

精度管理菌株：*Staphylococcus aureus* ATCC<sup>®</sup>29213,  $\beta$ -ラクタマーゼ阻害薬との合剤を測定する場合には *Escherichia coli* ATCC<sup>®</sup>35218 を追加して行う。

菌種：腸球菌

精度管理菌株：*Enterococcus faecalis* ATCC<sup>®</sup>29212 を使用する。

菌種：淋菌

精度管理菌株：*Neisseria gonorrhoeae* ATCC<sup>®</sup>49226 を使用する。

菌種：肺炎球菌以外のレンサ球菌

精度管理菌株：*Streptococcus pneumoniae* ATCC<sup>®</sup>49619 を使用する。

菌種：髄膜炎菌

精度管理菌株：*Streptococcus pneumoniae* ATCC<sup>®</sup>49619, シプロフロキサシン・ナリジクス酸・ミノサイクリンを測定する場合には *Escherichia coli* ATCC<sup>®</sup>25922 を使用する。

菌種：*Helicobacter pylori*

精度管理菌株：*Helicobacter pylori* ATCC<sup>®</sup>43504 を使用する。

菌種：嫌気性菌

精度管理菌株：*Bacteroides fragilis* ATCC<sup>®</sup>25285, *Bacteroides thetaiotaomicron* ATCC<sup>®</sup>29741, *Eggerthella lentum* ATCC<sup>®</sup>43055, *Clostridium difficile* ATCC<sup>®</sup>700057 を使用する。

## 10. 抗菌薬の Quality Control Range

基本的に CLSI の Performance Standards for Antimicrobial Susceptibility Testing (最新版) の抗菌薬 Quality Control Range を寒天平板希釈法に使用する。ただし、CLSI に記載されていない抗菌薬については、Table 1 に参考 QC レンジ値として日本化療設定値を CLSI の QC レンジといっしょに記載した。なお、日本化療設定値はあくまでも抗菌薬測定のための参考資料としてのみ使用する。

また、CLSI の QC レンジ値については上下 1 管以内の逸脱は許容範囲とみなすが、2 管差以上の逸脱は再測定を実施する。

この QC レンジ値は CLSI の最新改定版に記載された値に変更し使用する。また日本化療設定値は将来追加・変更することもある。

## 11. その他

1) 寒天平板希釈法による最小発育阻止濃度 (MIC) 測定法に関しては、CLSI の最新の改定版に記載された事項を参照し、適切なる測定法を実施する。

2) 寒天平板希釈法にて測定対象外の下記の細菌等に関しては、CLSI に記載されている液体希釈法にて測定することを推奨する。

● *Haemophilus influenzae*, ● *Haemophilus parainfluenzae*, ● *Streptococcus pneumoniae*, ● *Bacillus anthracis*, ● *Yersinia pestis*, ● *Burkholderia mallei*, ● *Burkholderia pseudomallei*, ● *Francisella tularensis*, ● *Brucella* spp., ● *Abiotrophia* spp., ● *Granulicatella* spp., ● *Aeromonas hydrophila* Complex, ● *Plesiomonas shigelloides*, ● *Bacillus* spp. (*B. anthracis* 以外), ● *Campylobacter jejuni/coli*, ● *Corynebacterium* spp., ● *Erysipelothrix rhusiopathiae*, ● HACEK Group\*, ● *Lactobacillus* spp., ● *Leuconostoc* spp., ● *Listeria monocytogenes*, ● *Branhamella catarrhalis*, ● *Pasteurella* spp., ● *Pediococcus* spp., ● *Vibrio* spp. (*V. cholerae* 以外)

\*HACEK Group: Genus *Haemophilus* (*H. aphrophilus*, *H. paraphrophilus*, *H. segnis*), *Actinobacillus actinomycescomitans*, *Cardiobacterium* spp., *Eikenella corrodens*, *Kingella* spp. を含む。

3) 精度管理菌株の入手に際しては、(株) 関東化学等に依頼すれば入手可能である (有料)。

## 12. 参考文献

1) Clinical and Laboratory Standards Institute. 2005. Methods for Antimicrobial Dilution and Disk Susceptibility Testing of Infrequently Isolated or Fastidious Bacteria; Proposed Guideline M45-P, CLSI, Wayne, USA.

2) Clinical and Laboratory Standards Institute. 2006. Methods for Dilution Antimicrobial Susceptibility Tests for Bacteria That Grow Aerobically; Approved Standard-Seventh Edition. M7-A7, CLSI, Wayne, USA.

3) Clinical and Laboratory Standards Institute. 2007. Performance Standards for Antimicrobial Susceptibility Testing; Seventeenth Informational Supplement. M100-S17, CLSI, Wayne, USA.

4) Clinical and Laboratory Standards Institute. 2007. Methods for Antimicrobial Susceptibility Testing of Anaerobic Bacteria; Approved Standard-Seventh Edition. M11-A7, CLSI, Wayne, USA.

Table 1. 最小発育阻止濃度 (MIC;  $\mu\text{g}/\text{mL}$ ) の精度管理限界値

抗菌薬	採用基準値	<i>Staphylococcus aureus</i> ATCC® 29213	<i>Enterococcus faecalis</i> ATCC® 29212	<i>Escherichia coli</i> ATCC® 25922	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> ATCC® 27853	<i>Escherichia coli</i> ATCC® 35218	<i>Streptococcus pneumoniae</i> ATCC® 49619	<i>Neisseria gonorrhoeae</i> ATCC® 49226	<i>Helicobacter pylori</i> ATCC® 43504	<i>Bacteroides fragilis</i> ATCC® 25285	<i>Bacteroides thetaiotaomicron</i> ATCC® 29741	<i>Clostridium difficile</i> ATCC® 700057	<i>Eubacterium lentum</i> ATCC® 43055
Amikacin	CLSI	1 ~ 4	64 ~ 256	0.5 ~ 4	1 ~ 4	—	—	—	—	—	—	—	—
Amoxicillin	CLSI	—	—	—	—	—	0.03 ~ 0.12	—	0.015 ~ 0.125	—	—	—	—
Amoxicillin-clavulanic acid	CLSI	0.125/0.06 ~ 0.5/0.25	0.25/0.125 ~ 1/0.5	2/1 ~ 8/4	—	4/2 ~ 16/8	0.03/0.015 ~ 0.12/0.06	—	—	0.25/0.125 ~ 1/0.5	0.5/0.25 ~ 2/1	0.25/0.125 ~ 1/0.5	—
Ampicillin	CLSI	0.5 ~ 2	0.5 ~ 2	2 ~ 8	—	—	0.06 ~ 0.25	—	—	16 ~ 64	16 ~ 64	1 ~ 4	—
Ampicillin-sulbactam	CLSI	—	—	2/1 ~ 8/4	—	8/4 ~ 32/16	—	—	—	0.5/0.25 ~ 2/1	0.5/0.25 ~ 2/1	0.5/0.25 ~ 4/2	0.25/0.125 ~ 2/1
Arbekacin	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	0.25 ~ 1	16 ~ 64	0.5 ~ 2	1 ~ 4	1 ~ 4	—	—	—	—	—	—	—
Aspoxicillin	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	2 ~ 8	2 ~ 8	2 ~ 8	16 ~ 64	—	—	—	—	—	—	—	—
Astromicin	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	1 ~ 4	16 ~ 64	2 ~ 8	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Azithromycin	CLSI	0.5 ~ 2	—	—	—	—	0.06 ~ 0.25	—	—	—	—	—	—
Azlocillin	CLSI	2 ~ 8	1 ~ 4	8 ~ 32	2 ~ 8	—	—	—	—	—	—	—	—
Aztreonam	CLSI	—	—	0.06 ~ 0.25	2 ~ 8	—	—	—	—	—	—	—	—
Biapenem	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	0.03 ~ 0.125	0.5 ~ 2	0.03 ~ 0.125	0.5 ~ 2	0.03 ~ 0.125	—	—	—	—	—	—	—
Carbenicillin	CLSI	2 ~ 8	16 ~ 64	4 ~ 16	16 ~ 64	—	—	—	—	—	—	—	—
Carumonam	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	—	—	0.06 ~ 0.5	1 ~ 4	—	—	—	—	—	—	—	—
Cefaclor	CLSI	1 ~ 4	—	1 ~ 4	—	—	1 ~ 4	—	—	—	—	—	—
Cefamandole	CLSI	0.25 ~ 1	—	0.25 ~ 1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Cefatrizine	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	0.5 ~ 2	—	4 ~ 16	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Cefazolin	CLSI	0.25 ~ 1	—	1 ~ 4	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Cefbuperazone	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	8 ~ 32	—	0.125 ~ 1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Cefdinir	CLSI	0.125 ~ 0.5	—	0.125 ~ 0.5	—	—	0.03 ~ 0.25	0.008 ~ 0.03	—	—	—	—	—
Cefditoren	CLSI	0.25 ~ 2	—	0.125 ~ 1	—	—	0.015 ~ 0.12	—	—	—	—	—	—
Cefepime	CLSI	1 ~ 4	—	0.015 ~ 0.125	1 ~ 8	—	0.03 ~ 0.25	0.015 ~ 0.06	—	—	—	—	—
Cefetamet	CLSI	—	—	0.25 ~ 1	—	—	0.5 ~ 2	0.015 ~ 0.25	—	—	—	—	—
Cefixime	CLSI	8 ~ 32	—	0.25 ~ 1	—	—	—	0.004 ~ 0.03	—	—	—	—	—
Cefmenoxime	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	1 ~ 4	—	0.06 ~ 0.5	8 ~ 32	—	—	—	—	—	—	—	—
Cefmetazole	CLSI	0.5 ~ 2	—	0.25 ~ 1	> 32	—	—	0.5 ~ 2	—	8 ~ 32	32 ~ 128	—	4 ~ 16
Cefminox	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	8 ~ 32	—	0.25 ~ 1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Cefodizime	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	4 ~ 16	—	—	16 ~ 64	—	—	—	—	—	—	—	—
Cefonicid	CLSI	1 ~ 4	—	0.25 ~ 1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Cefoperazone	CLSI	1 ~ 4	—	0.125 ~ 0.5	2 ~ 8	—	—	—	—	32 ~ 128	32 ~ 128	—	32 ~ 128
Cefoselis	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	0.5 ~ 2	—	0.03 ~ 0.125	1 ~ 4	—	—	—	—	—	—	—	—
Cefotaxime	CLSI	1 ~ 4	—	0.03 ~ 0.125	8 ~ 32	—	0.03 ~ 0.12	0.015 ~ 0.06	—	8 ~ 32	16 ~ 64	—	64 ~ 256
Cefotetan	CLSI	4 ~ 16	—	0.06 ~ 0.25	—	—	—	0.5 ~ 2	—	4 ~ 16	32 ~ 128	—	32 ~ 128
Cefotiam	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	0.5 ~ 2	—	0.125 ~ 0.5	—	0.06 ~ 0.25	—	—	—	—	—	—	—
Cefoxitin	CLSI	1 ~ 4	—	2 ~ 8	—	—	—	0.5 ~ 2	—	4 ~ 16	8 ~ 32	—	4 ~ 16
Cefozopran	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	0.5 ~ 2	—	0.06 ~ 0.25	0.5 ~ 2	—	—	—	—	—	—	—	—
Cefpiramide	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	1 ~ 4	—	1 ~ 4	1 ~ 4	2 ~ 8	—	—	—	—	—	—	—
Cefpirome	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	0.25 ~ 1	1 ~ 8	0.03 ~ 0.125	1 ~ 4	< 0.5	—	—	—	—	—	—	—
Cefpodoxime	CLSI	1 ~ 8	—	0.25 ~ 1	—	—	—	0.03 ~ 0.12	0.03 ~ 0.125	—	—	—	—
Cefprozil	CLSI	0.25 ~ 1	—	1 ~ 4	—	—	—	0.25 ~ 1	—	—	—	—	—

(次頁に続く)

Table 1. (続き)

抗菌薬	採用基準値	<i>Staphylococcus aureus</i> ATCC® 29213	<i>Enterococcus faecalis</i> ATCC® 29212	<i>Escherichia coli</i> ATCC® 25922	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> ATCC® 27853	<i>Escherichia coli</i> ATCC® 35218	<i>Streptococcus pneumoniae</i> ATCC® 49619	<i>Neisseria gonorrhoeae</i> ATCC® 49226	<i>Helicobacter pylori</i> ATCC® 43504	<i>Bacteroides fragilis</i> ATCC® 25285	<i>Bacteroides thetaiotaomicron</i> ATCC® 29741	<i>Clostridium difficile</i> ATCC® 700057	<i>Eubacterium lentum</i> ATCC® 43055
Cefroxadine	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	1 ~ 4	—	2 ~ 8	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Cefsulodin	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	2 ~ 8	—	32 ~ 128	1 ~ 4	32 ~ 128	—	—	—	—	—	—	—
Ceftaroline	CLSI	0.125 ~ 0.5	—	0.03 ~ 0.125	—	—	0.008 ~ 0.03	—	—	—	—	—	—
Ceftazidime	CLSI	4 ~ 16	—	0.06 ~ 0.5	1 ~ 4	—	—	0.03 ~ 0.125	—	—	—	—	—
Ceferam	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	2 ~ 8	> 1	0.125 ~ 0.5	32 ~ 128	—	—	—	—	—	—	—	—
Ceftibuten	CLSI	—	—	0.125 ~ 0.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Ceftizoxime	CLSI	2 ~ 8	—	0.03 ~ 0.125	16 ~ 64	—	0.12 ~ 0.5	0.008 ~ 0.03	—	—	4 ~ 16	—	16 ~ 64
Ceftobiprole	CLSI	0.25 ~ 1	0.06 ~ 0.5	0.03 ~ 0.125	1 ~ 4	—	0.004 ~ 0.03	—	—	—	—	—	—
Ceftriaxone	CLSI	1 ~ 8	—	0.03 ~ 0.125	8 ~ 64	—	0.03 ~ 0.12	0.004 ~ 0.015	—	32 ~ 128	64 ~ 256	—	—
Cefuroxime	CLSI	0.5 ~ 2	—	2 ~ 8	—	—	0.25 ~ 1	0.25 ~ 1	—	—	—	—	—
Cephalexin	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	1 ~ 4	—	8 ~ 32	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Cephalothin	CLSI	0.125 ~ 0.5	—	4 ~ 16	—	—	0.5 ~ 2	—	—	—	—	—	—
Chloramphenicol	CLSI	2 ~ 16	4 ~ 16	2 ~ 8	—	—	2 ~ 8	—	—	2 ~ 8	4 ~ 16	—	—
Cinoxacin	CLSI	—	—	2 ~ 8	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Ciprofloxacin	CLSI	0.125 ~ 0.5	0.25 ~ 2	0.004 ~ 0.015	0.25 ~ 1	—	—	0.001 ~ 0.008	—	—	—	—	—
Clarithromycin	CLSI	0.125 ~ 0.5	—	—	—	—	0.03 ~ 0.12	—	0.015 ~ 0.125	—	—	—	—
Clinafloxacin	CLSI	0.008 ~ 0.06	0.03 ~ 0.25	0.002 ~ 0.015	0.06 ~ 0.5	—	0.03 ~ 0.12	—	—	0.03 ~ 0.125	0.06 ~ 0.5	—	0.03 ~ 0.125
Clindamycin	CLSI	0.06 ~ 0.25	4 ~ 16	—	—	—	0.03 ~ 0.12	—	—	0.5 ~ 2	2 ~ 8	2 ~ 8	0.06 ~ 0.25
Cloxacillin	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	0.25 ~ 1	8 ~ 32	256 ~ 1,024	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Colistin	CLSI	—	—	0.25 ~ 1	0.25 ~ 2	—	—	—	—	—	—	—	—
Dalbavancin	CLSI	0.03 ~ 0.125	0.03 ~ 0.125	—	—	—	0.008 ~ 0.03	—	—	—	—	—	—
Daptomycin	CLSI	0.25 ~ 1	1 ~ 4	—	—	—	0.06 ~ 0.5	—	—	—	—	—	—
Dibekacin	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	0.25 ~ 2	8 ~ 32	0.5 ~ 4	0.5 ~ 4	—	—	—	—	—	—	—	—
Dicloxacillin	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	0.125 ~ 0.5	8 ~ 32	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Dirithromycin	CLSI	1 ~ 4	—	—	—	—	0.06 ~ 0.25	—	—	—	—	—	—
Doripenem	CLSI	0.015 ~ 0.06	1 ~ 4	0.015 ~ 0.06	0.125 ~ 0.5	—	0.03 ~ 0.12	—	—	—	—	0.5 ~ 4	—
Doxycycline	CLSI	0.125 ~ 0.5	2 ~ 8	0.5 ~ 2	—	—	0.015 ~ 0.12	—	—	—	—	—	—
Enoxacin	CLSI	0.5 ~ 2	2 ~ 16	0.06 ~ 0.25	2 ~ 8	—	—	0.015 ~ 0.06	—	—	—	—	—
Ertapenem	CLSI	0.06 ~ 0.25	4 ~ 16	0.04 ~ 0.015	2 ~ 8	—	0.03 ~ 0.25	—	—	0.06 ~ 0.25	0.25 ~ 1	—	0.5 ~ 2
Erythromycin	CLSI	0.25 ~ 1	1 ~ 4	—	—	—	0.03 ~ 0.12	—	—	—	—	—	—
Faropenem	CLSI	0.03 ~ 0.125	—	0.25 ~ 1	—	—	0.03 ~ 0.25	—	—	0.03 ~ 0.25	0.125 ~ 1	—	1 ~ 4
Fleroxacin	CLSI	0.25 ~ 1	2 ~ 8	0.03 ~ 0.125	1 ~ 4	—	—	0.008 ~ 0.03	—	—	—	—	—
Flomoxef	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	0.25 ~ 1	32 ~ 128	0.06 ~ 0.25	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Fosfomicin	CLSI	0.5 ~ 4	32 ~ 128	0.5 ~ 2	2 ~ 8	—	—	—	—	—	—	—	—
Garenoxacin	CLSI	0.004 ~ 0.03	0.03 ~ 0.25	0.004 ~ 0.03	0.5 ~ 2	—	0.015 ~ 0.06	—	—	0.06 ~ 0.5	0.25 ~ 1	0.5 ~ 2	1 ~ 4
Gatifloxacin	CLSI	0.03 ~ 0.125	0.125 ~ 1.0	0.008 ~ 0.03	0.5 ~ 2	—	0.12 ~ 0.5	0.002 ~ 0.015	—	—	—	—	—
Gemifloxacin	CLSI	0.008 ~ 0.03	0.015 ~ 0.125	0.004 ~ 0.015	0.25 ~ 1	—	0.008 ~ 0.03	—	—	—	—	—	—
Gentamicin	CLSI	0.125 ~ 1	4 ~ 16	0.25 ~ 1	0.5 ~ 2	—	—	—	—	—	—	—	—
Grepafoxacin	CLSI	0.03 ~ 0.125	0.125 ~ 0.5	0.004 ~ 0.03	0.25 ~ 2.0	—	0.06 ~ 0.5	0.004 ~ 0.03	—	—	—	—	—
Iclaprim	CLSI	0.06 ~ 0.25	0.004 ~ 0.03	1 ~ 4	—	—	0.03 ~ 0.12	—	—	—	—	—	—
Imipenem	CLSI	0.015 ~ 0.06	0.5 ~ 2	0.06 ~ 0.25	1 ~ 4	—	0.03 ~ 0.12	—	—	0.03 ~ 0.125	0.125 ~ 0.5	—	0.125 ~ 0.5
Isepamicin	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	1 ~ 4	32 ~ 128	0.5 ~ 2	2 ~ 8	0.5 ~ 2	—	—	—	—	—	—	—

(次頁に続く)

Table 1. (続き)

抗菌薬	採用基準値	<i>Staphylococcus aureus</i> ATCC® 29213	<i>Enterococcus faecalis</i> ATCC® 29212	<i>Escherichia coli</i> ATCC® 25922	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> ATCC® 27853	<i>Escherichia coli</i> ATCC® 35218	<i>Streptococcus pneumoniae</i> ATCC® 49619	<i>Neisseria gonorrhoeae</i> ATCC® 49226	<i>Helicobacter pylori</i> ATCC® 43504	<i>Bacteroides fragilis</i> ATCC® 25285	<i>Bacteroides thetaiotaomicron</i> ATCC® 29741	<i>Clostridium difficile</i> ATCC® 700057	<i>Eubacterium lentum</i> ATCC® 43055
Josamycin	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	1 ~ 4	2 ~ 8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Kanamycin	CLSI	1 ~ 4	16 ~ 64	1 ~ 4	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Kitasamycin	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	0.25 ~ 1	1 ~ 4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Latamoxef	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	4 ~ 16	—	0.125 ~ 0.5	8 ~ 32	—	—	—	—	—	—	—	—
Levofloxacin	CLSI	0.06 ~ 0.5	0.25 ~ 2	0.008 ~ 0.06	0.5 ~ 4	—	0.5 ~ 2	—	—	—	—	—	—
Lincomycin	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	0.25 ~ 1	32 ~ 128	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Linezolid	CLSI	1 ~ 4	1 ~ 4	—	—	—	0.5 ~ 2	—	—	2 ~ 8	2 ~ 8	1 ~ 4	0.5 ~ 2
Lomefloxacin	CLSI	0.25 ~ 2	2 ~ 8	0.03 ~ 0.125	1 ~ 4	—	—	0.008 ~ 0.03	—	—	—	—	—
Loracarbef	CLSI	0.5 ~ 2	—	0.5 ~ 2	> 8	—	2 ~ 8	—	—	—	—	—	—
Mecillinam	CLSI	—	—	0.03 ~ 0.25	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Meropenem	CLSI	0.03 ~ 0.125	2 ~ 8	0.008 ~ 0.06	0.25 ~ 1	—	0.06 ~ 0.25	—	—	0.03 ~ 0.25	0.125 ~ 0.5	0.5 ~ 4	0.125 ~ 1
Methicillin	CLSI	0.5 ~ 2	> 16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Metronidazole	CLSI	—	—	—	—	—	—	—	64 ~ 256	—	—	—	—
Mezlocillin	CLSI	1 ~ 4	1 ~ 4	2 ~ 8	8 ~ 32	—	—	—	—	0.25 ~ 1	0.5 ~ 2	0.125 ~ 0.5	—
Miconomicin	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	0.125 ~ 1	4 ~ 32	0.5 ~ 2	2 ~ 8	—	—	—	—	16 ~ 64	8 ~ 32	—	8 ~ 32
Minocycline	CLSI	0.06 ~ 0.5	1 ~ 4	0.25 ~ 1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Moxalactam	CLSI	4 ~ 16	—	0.125 ~ 0.5	8 ~ 32	—	—	—	—	—	—	—	—
Moxifloxacin	CLSI	0.015 ~ 0.125	0.06 ~ 0.5	0.008 ~ 0.06	1 ~ 8	—	0.06 ~ 0.25	—	—	0.125 ~ 0.5	1 ~ 4	1 ~ 4	0.125 ~ 0.5
Mupirocin	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	0.125 ~ 0.5	32 ~ 128	32 ~ 128	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Nafcillin	CLSI	0.125 ~ 0.5	2 ~ 8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Nalidixic acid	CLSI	—	—	1 ~ 4	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Netilmicin	CLSI	≤ 0.25	4 ~ 16	≤ 0.5 ~ 1	0.5 ~ 8	—	—	—	—	—	—	—	—
Nitazoxanide	CLSI	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.06 ~ 0.5	—
Nitrofurantoin	CLSI	8 ~ 32	4 ~ 16	4 ~ 16	—	—	4 ~ 16	—	—	—	—	—	—
Norfloxacin	CLSI	0.5 ~ 2	2 ~ 8	0.03 ~ 0.125	1 ~ 4	—	—	—	—	—	—	—	—
Ofloxacin	CLSI	0.125 ~ 1	1 ~ 4	0.015 ~ 0.125	1 ~ 8	—	—	0.004 ~ 0.015	—	—	—	—	—
Oritavancin	CLSI	0.5 ~ 2	0.125 ~ 1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Oxacillin	CLSI	0.125 ~ 0.5	8 ~ 32	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Panipenem	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	0.03 ~ 0.125	0.25 ~ 1	0.03 ~ 0.125	4 ~ 16	—	—	—	—	—	—	—	—
Pazufloxacin	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	0.125 ~ 0.5	2 ~ 8	0.015 ~ 0.06	0.5 ~ 2	—	—	—	—	—	—	—	—
Penicillin	CLSI	0.25 ~ 2	1 ~ 4	—	—	—	—	0.25 ~ 1	—	8 ~ 32	8 ~ 32	1 ~ 4	—
Pipemidic acid	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	32 ~ 128	> 32	1 ~ 4	16 ~ 64	—	—	—	—	—	—	—	—
Piperacillin	CLSI	1 ~ 4	1 ~ 4	1 ~ 4	1 ~ 8	—	—	—	—	2 ~ 8	8 ~ 32	4 ~ 16	8 ~ 32
Piperacillin-tazobactam	CLSI	0.25/4 ~ 2/4	1/4 ~ 4/4	1/4 ~ 4/4	1/4 ~ 8/4	0.5/4 ~ 2/4	—	—	—	0.125/4 ~ 0.5/4	4/4 ~ 16/4	4/4 ~ 16/4	4/4 ~ 16/4
Polymyxin B	CLSI	—	—	0.25 ~ 2	0.25 ~ 2	—	—	—	—	—	—	—	—
Prulifloxacin	日本治療設定値 <sup>1)</sup>	0.125 ~ 0.5	0.25 ~ 2	0.008 ~ 0.06	0.125 ~ 1	—	—	—	—	—	—	—	—
Quinupristin-dalfopristin	CLSI	0.25 ~ 1	2 ~ 8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Ramoplanin	CLSI	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.125 ~ 0.5	—
Rifampin	CLSI	0.004 ~ 0.015	0.5 ~ 4	4 ~ 16	16 ~ 64	—	—	—	—	—	—	—	—
Rifaximin	CLSI	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.0039 ~ 0.0156	—

(次頁に続く)

Table 1. (続き)

抗菌薬	採用基準値	<i>Staphylococcus aureus</i> ATCC® 29213	<i>Enterococcus faecalis</i> ATCC® 29212	<i>Escherichia coli</i> ATCC® 25922	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> ATCC® 27853	<i>Escherichia coli</i> ATCC® 35218	<i>Streptococcus pneumoniae</i> ATCC® 49619	<i>Neisseria gonorrhoeae</i> ATCC® 49226	<i>Helicobacter pylori</i> ATCC® 43504	<i>Bacteroides fragilis</i> ATCC® 25285	<i>Bacteroides thetaiotaomicron</i> ATCC® 29741	<i>Clostridium difficile</i> ATCC® 700057	<i>Eubacterium lentum</i> ATCC® 43055
Rokitamycin	日本化療設定値 <sup>1)</sup>	0.25 ~ 1	1 ~ 4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Roxithromycin	日本化療設定値 <sup>1)</sup>	0.5 ~ 2	2 ~ 8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Sisomicin	日本化療設定値 <sup>1)</sup>	0.125 ~ 1	8 ~ 64	0.25 ~ 2	0.5 ~ 4	—	—	—	—	—	—	—	—
Sparfloxacin	CLSI	0.03 ~ 0.125	0.125 ~ 0.5	0.004 ~ 0.015	0.5 ~ 2	—	—	0.004 ~ 0.015	—	—	—	—	—
Spectinomycin	CLSI	—	—	—	—	—	—	8 ~ 32	—	—	—	—	—
Sulbenicillin	日本化療設定値 <sup>1)</sup>	2 ~ 8	16 ~ 64	8 ~ 32	16 ~ 64	—	—	—	—	—	—	—	—
Sulfamethoxazole-trimethoprim	CLSI	≤ 9.5/0.5	≤ 9.5/0.5	≤ 9.5/0.5	152/8 ~ 608/32	—	—	—	—	—	—	—	—
Sulfisoxazole	CLSI	32 ~ 128	32 ~ 128	8 ~ 32	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Sultamicillin	日本化療設定値 <sup>1)</sup>	0.25 ~ 1	1 ~ 4	4 ~ 16	—	8 ~ 32	—	—	—	—	—	—	—
Teicoplanin	CLSI	0.25 ~ 1	0.06 ~ 0.25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Telavancin	CLSI	0.125 ~ 1	0.125 ~ 0.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Telithromycin	CLSI	0.06 ~ 0.25	0.015 ~ 0.125	—	—	—	—	—	0.06 ~ 0.5	—	—	—	—
Tetracycline	CLSI	0.125 ~ 1	8 ~ 32	0.5 ~ 2	8 ~ 32	—	—	0.25 ~ 1	0.125 ~ 1.0	0.125 ~ 0.5	8 ~ 32	—	—
Ticarcillin	CLSI	2 ~ 8	16 ~ 64	4 ~ 16	8 ~ 32	—	—	—	—	16 ~ 64	16 ~ 64	16 ~ 64	16 ~ 64
Ticarcillin-clavulanic acid	CLSI	0.5/2 ~ 2/2	16/2 ~ 64/2	4/2 ~ 16/2	8/2 ~ 32/2	8/2 ~ 32/2	—	—	—	—	0.5/2 ~ 2/2	16/2 ~ 64/2	16/2 ~ 64/2
Tigecycline	CLSI	0.03 ~ 0.25	0.03 ~ 0.125	0.03 ~ 0.25	—	—	—	—	—	0.125 ~ 1	0.5 ~ 2	0.125 ~ 1	0.06 ~ 0.5
Tinidazole	CLSI	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.125 ~ 0.5	—
Tizoxanide	CLSI	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.06 ~ 0.5	—
Tobramycin	CLSI	0.125 ~ 1	8 ~ 32	0.25 ~ 1	0.25 ~ 1	—	—	—	—	—	—	—	—
Tosufloxacin	日本化療設定値 <sup>1)</sup>	0.03 ~ 0.125	0.125 ~ 0.5	—	0.125 ~ 0.5	—	—	—	—	—	—	—	—
Trimethoprim	CLSI	1 ~ 4	0.125 ~ 0.5	0.5 ~ 2	> 64	—	—	—	—	—	—	—	—
Trimethoprim-sulfamethoxazole	CLSI	≤ 0.5/9.5	≤ 0.5/9.5	≤ 0.5/9.5	8/152 ~ 32/608	—	—	—	—	—	—	—	—
Trospectomycin	CLSI	2 ~ 16	2 ~ 8	8 ~ 32	—	—	—	1 ~ 4	—	—	—	—	—
Trovalfloxacin	CLSI	0.008 ~ 0.03	0.06 ~ 0.25	0.004 ~ 0.015	0.25 ~ 2	—	—	0.004 ~ 0.015	—	—	—	—	—
Vancomycin	CLSI	0.5 ~ 2	1 ~ 4	—	—	—	—	—	—	—	—	0.5 ~ 4	—

<sup>1)</sup> 日本化学療法学会が暫定的に設定した管理限界値であるため、精度管理に関しては参考値として利用いただきたい

<sup>2)</sup> 注意点など詳細な内容については CLSI の Performance Standards for Antimicrobial Susceptibility Testing (最新版) を参照のこと

μg/mL